

平成 21 年度 研究船利用課題募集対象船舶機器等について

独立行政法人海洋研究開発機構
研究船運航部

平成 21 年度募集対象船舶機器の仕様及び、注意事項などについてお知らせします。募集対象船舶機器・ペイロード機器等の詳細情報は、各船舶機器の「利用の手引き」を参照してください。なお、調査観測海域、海底地形図の情報及び気象・海象情報並びに EEZ、漁業調整、紛争地域、安全保障輸管理等その他不明な点については、事務局に問い合わせください。

研究船利用事務局

TEL : (046) 867-9883 FAX : (046) 869-0812 E-mail : riyo-kobo@jamstec.go.jp

1. 平成 21 年度 公募対象船舶、調査観測機器等

- (1) 潜水調査船「しんかい 6500」と支援母船「よこすか」
 - ・一行動における潜航回数の設定は自由ですが、連続潜航は原則、最大 5 日間とします。
- (2) 深海巡航探査機「うらしま」と支援母船「よこすか」
 - ・一行動における潜航回数の設定は自由ですが、連続潜航は原則、最大 5 日間とします。
 - ・「うらしま」と「しんかい 6500」は「よこすか」に同時搭載は出来ません。
 - ・「うらしま」で取得した海底地形データは解析に時間を要するため、海底地形図の作成は帰港後となります。
- (3) 無人探査機「かいこう 7000 II」と深海調査研究船「かきれい」
 - ・無人探査機「かいこう 7000 II」(Max. Depth : 7000m) を搭載した航海と深海調査研究船「かきれい」単独の航海があります。
- (4) 無人探査機「ハイパードルフィン」と海洋調査船「なつしま」
 - ・「ハイパードルフィン」と「ディープ・トウ」は「なつしま」に同時搭載は出来ません。
 - ・「ハイパードルフィン」は「よこすか」「かきれい」に搭載できません。
 - ・「ハイパードルフィン」の連続潜航は、原則、最大 8 日間とします。
 - ・「なつしま」はマルチナロービーム音響測深機 (SEABAT8160 Max. Depth : 3000m) を装備しています。
- (5) 深海曳航調査システム「ディープ・トウ」(深海カメラ、サイドスキャンソナー)
 - ・「ディープ・トウ」の連続潜航は原則、最大 8 日間とします。
 - ・「ディープ・トウ」は、「なつしま」「かいよう」「よこすか」「かきれい」に搭載可能です。
 - ・「よこすか」には、「しんかい 6500」の安全確認に使用する「よこすかディープ・トウ」(4000m級) を常時搭載しています。「しんかい 6500」の調査行動中、洋上で「ディープ・トウ」への艀装替えが可能なように変更しています。
- (6) シングルチャンネル音波探査装置 (SCS)
 - ・「なつしま」「かいよう」「よこすか」「かきれい」及び「みらい」に搭載可能ですが、各船での構成が若干異なります。それぞれの制限は以下の通りです。
 - ① 「なつしま」「よこすか」及び「みらい」にはコンプレッサーユニットの搭載が必要です。コンテナを搭載する場合は調整を要します。
 - ② 「かいよう」「かきれい」は固定装備品のコンプレッサーを使用出来ることから、

それ以外の機器の搭載だけで実施可能です。

(7) 採泥関連（ピストンコア、ドレッジ等）

・「なつしま」「かいよう」「よこすか」「かいいい」及び「みらい」に搭載可能ですが、各船での構成が若干異なります。

- ①「なつしま」「かいよう」及び「よこすか」にはワイヤーウインチの搭載が必要です。
- ②「かいいい」「みらい」は固定装備品のワイヤーウインチを使用出来ることから、それ以外の機器の搭載だけで実施可能です。
- ③ウインチワイヤーの性能（総ワイヤー長、巻取り能力）から、ピストンコア、ドレッジ機器の観測仕様や水深に制限が発生する場合があります。
- ④他調査観測機器（コンテナ、潜水船等）との同時搭載には制限がありますので事前に事務局に連絡ください。

両機器の使用を希望する場合は、採泥点の水深と、両機器の希望する調査観測仕様を事務局に連絡ください。

(8) 測深航跡図（Multibeam Echo Sounder Survey Lines）（別添1 参照）

・「よこすか」「かいいい」「みらい」（SEABEAM2112）、「かいよう」（SEABEAM2100）、「なつしま」（SEABAT8160）による過去の調査海域は別添：測深航跡図（Multibeam Echo Sounder Survey Lines）の通りですが、該当する調査海域では過去の測深データを利用し、海底地形図取得の重複を避けてください。測線の詳細については事務局に連絡ください。

(9) 観測機器の同時搭載について

・「しんかい6500」「かいこう7000Ⅱ」「ハイパードルフィン」「ディープ・トウ」などの潜水調査船、無人探査機等と、シングルチャンネル音波探査、採泥の同時搭載・利用を希望する場合、船舶の搭載許容量や船体装置により不可能な場合があります。同時搭載・利用を希望する場合は、事前に事務局に連絡ください。

3. 海域について

(1) 海図等から明らかに危険と考えられる海域では研究できません。

(2) 沖縄トラフ伊是名海穴は、浮き魚礁の撤去作業を無人探査機「ハイパードルフィン」の訓練潜航において実施していますが、未だ全ての浮き魚礁の撤去は完了していません。したがって、平成21年度も沖縄トラフの伊是名海穴においては、無人探査機「ハイパードルフィン」による潜航調査のみ実施できます。なお、南奄西海丘の潜航禁止は有人・無人探査機共に解除します。

4. 排他的経済水域（EEZ）について

排他的経済水域（EEZ）内や領海内での調査観測研究は、当該相手国や関係機関への届け出等に9月から10月以上の準備期間を要するので、研究計画立案には十分に配慮してください。排他的経済水域（EEZ）に関する申請に必要な項目等は、国連ホームページを参照してください。

http://www.un.org/Depts/los/convention_agreements/texts/unclos/closindx.htm

5. 海賊、テロ等や紛争地域について

海賊、テロ等や紛争地域の調査観測研究は、安全確保の見地から航海を実施できないので、研

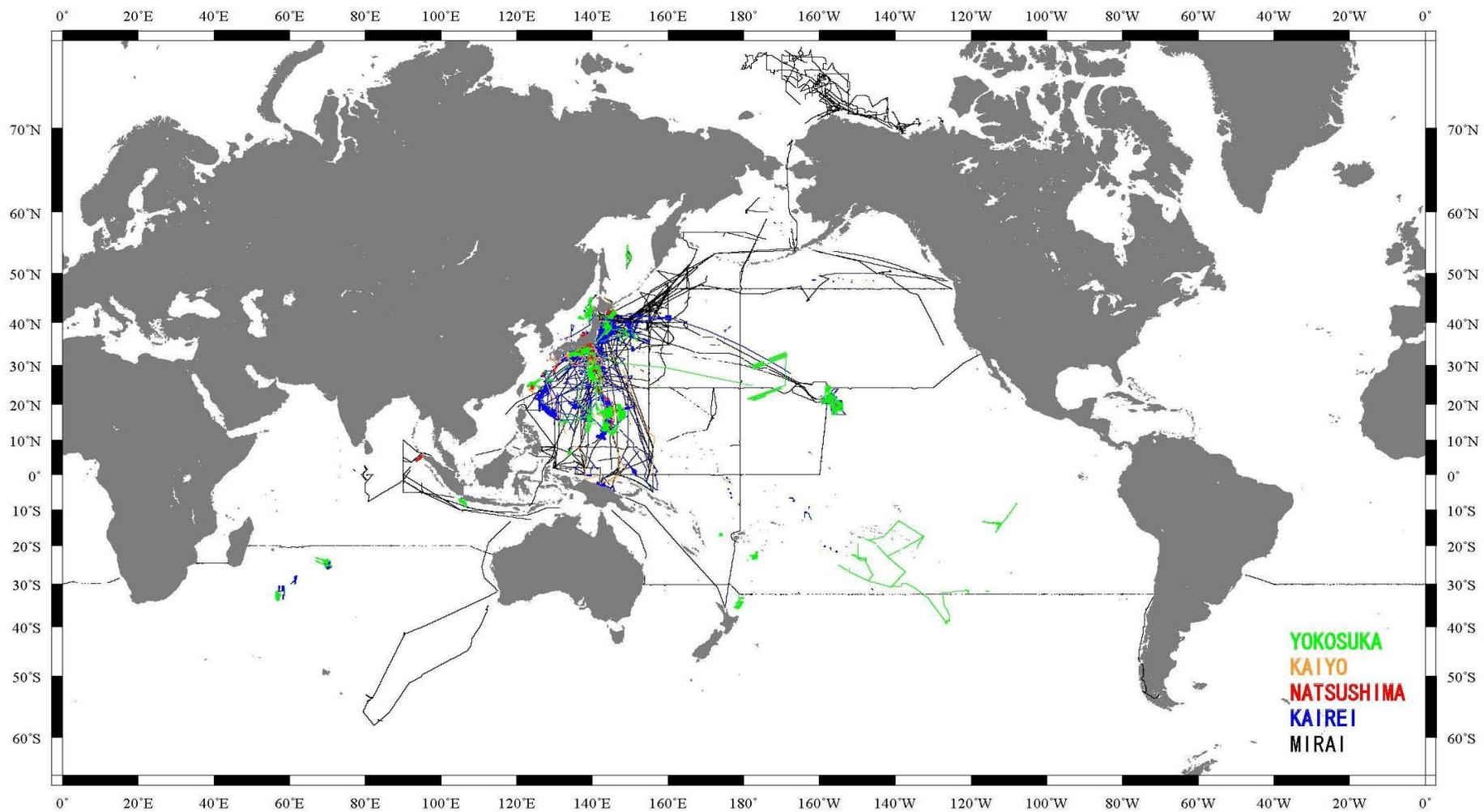
究計画立案時にはご注意ください。疑わしい海域は、採択後変更することがあります。テロ・紛争地域等については外務省のホームページを参照してください。

6. 調査観測海域事前説明、海底地形図情報及び気象・海象情報の提供

研究計画立案の段階で調査観測海域の事前確認、海底地形図の情報及び気象・海象情報等について機構から情報を受けることができます。但し、気象・海象情報データの収集に経費が発生する場合は、実費を請求する場合があります。

7. アイソバン実験室（RI ラボコンテナ）の利用について

可搬式のアイソバン実験室（RI ラボコンテナ）に関しては、各船舶に搭載が可能ですが、使用核種や数量に制限があるので、詳しくは「利用の手引」（アイソバン実験室（R I ラボコンテナ））を参照してください。また、利用に際し、第一種放射線取扱主任免状を有するものを手配し、機構が別途実施する教育訓練を必ず受講してください。



GMD 2008 May 30 14:23:18 Track Map of Multi Beam Echo Sounder Data [ID08-042] Copyright 2008 JAMSTEC(DIAG).